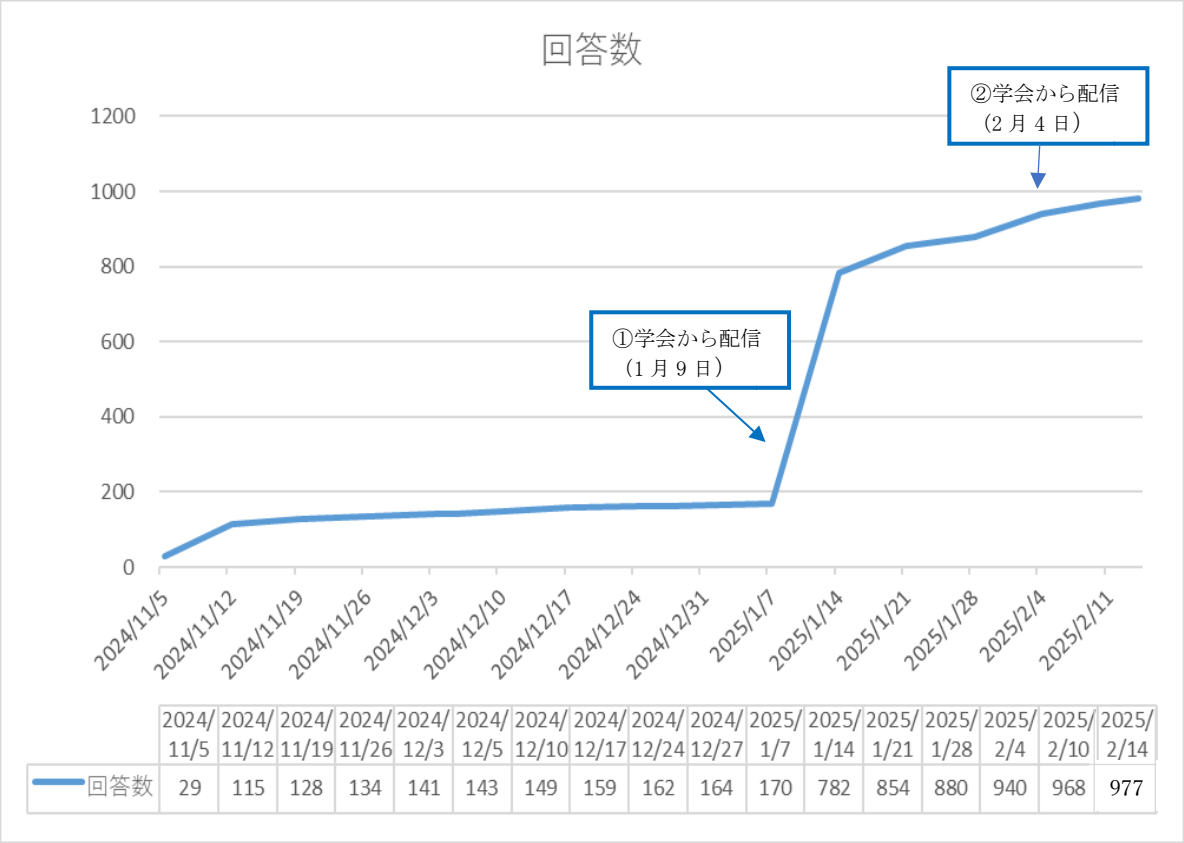


提言第 18 号「股関節手術を契機とした出血に係る死亡事例の分析」
提言アンケート結果（速報）

【提言第 18 号】

- 実施期間：2024 年 11 月 1 日～2025 年 2 月 14 日
- 有効回答数：977 名
- 対象人数：日本整形外科学会会員数 27,035 名

○ 回答状況



○ 対応

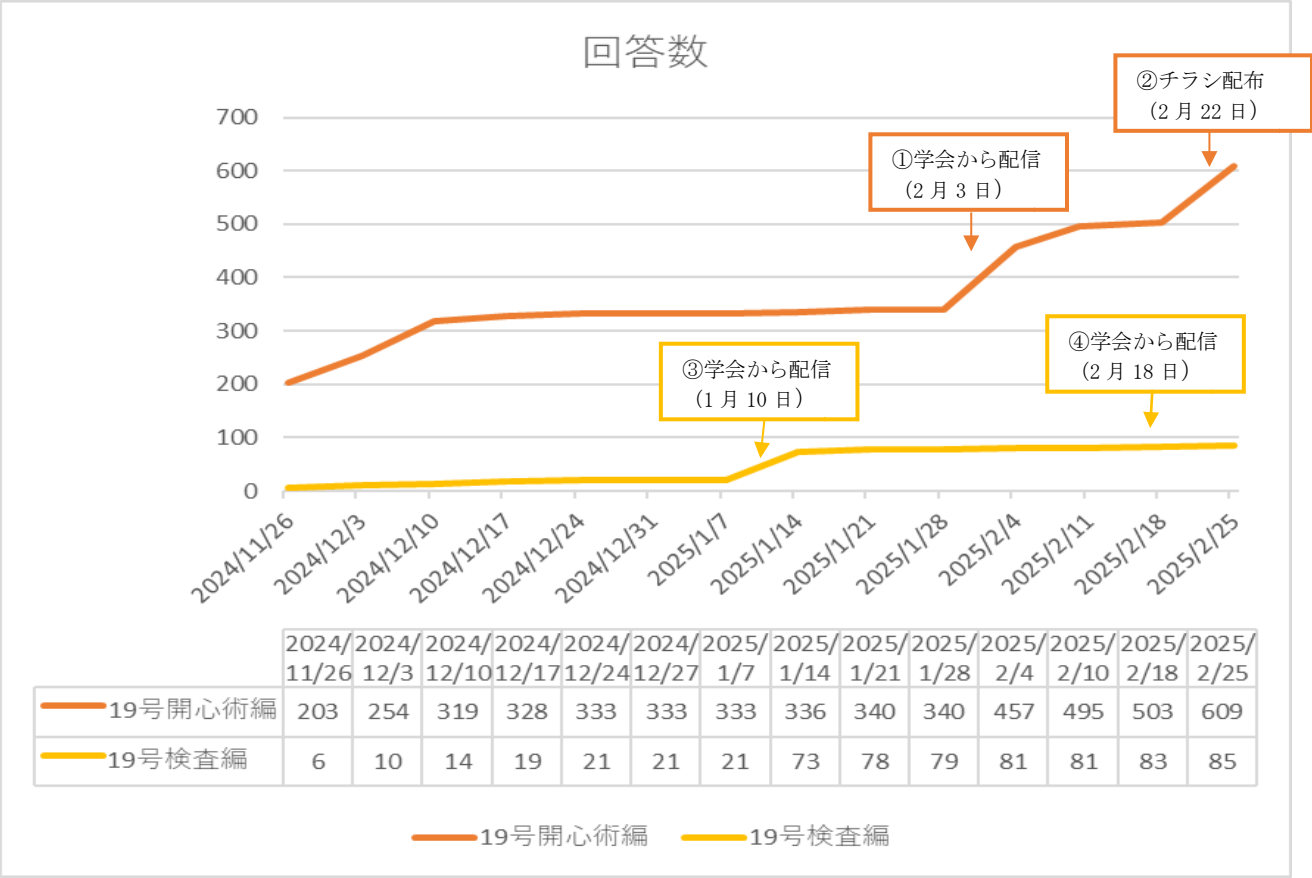
- ① 新たに日本股関節学会、日本人工関節学会、日本整形外傷学会は 1 月 9 日にメール配信された。
- ② アンケートの締め切りを 2 月 14 日まで延長したため 2 月 4 日に日本整形外科学会よりメール配信された。

提言第 19 号「肺動脈カテーテルに係る死亡事例の分析」
－第 1 部開心術編、第 2 部検査編－
提言アンケート集計（中間報告）

【提言第 19 号】

- 実施期間：2024 年 11 月 25 日～2025 年 3 月 14 日 実施中
- 有効回答数：開心術編 609 名、検査編 85 名（2 月 25 日現在）
- 対象人数：開心術編 日本心臓血管外科学会会員数 約 4,382 名
日本心臓血管麻酔学会会員数 約 3,500 名
：検査編 日本循環器学会会員数 約 16,000 名

○ 回答状況



○ 対応

（開心術編）

- ① 日本心臓麻酔学会より 2 月 3 日にアンケートの再周知をメール配信された。
- ② 日本心臓血管外科学会学術総会（2 月 22 日開催）の医療安全講習会においてアンケートご協力をお願い（チラシ）を配布された。

（検査編）

- ③ 日本肺高血圧・肺循環学会に協力を依頼し、1 月 10 日にメール配信された。
- ④ 日本循環器学会より 2 月 18 日にアンケートの再周知をニュースレターに掲載された。

「股関節手術を契機とした出血に係る死亡事例の分析」
に関するWebアンケート集計結果（速報）



提言第18号 Webアンケート実施概要

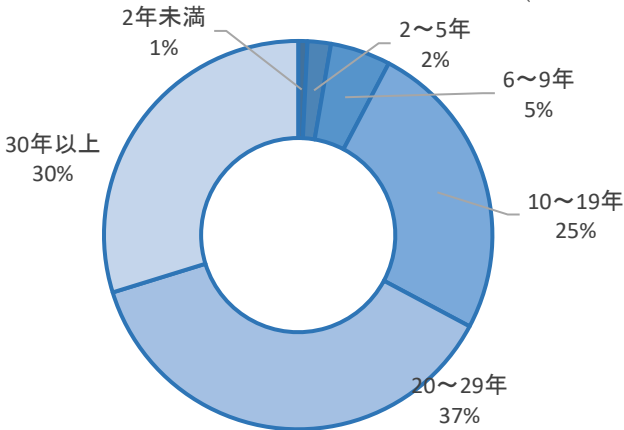
調査期間 2024年11月1日～2月14日

回答数 977名

回答者について

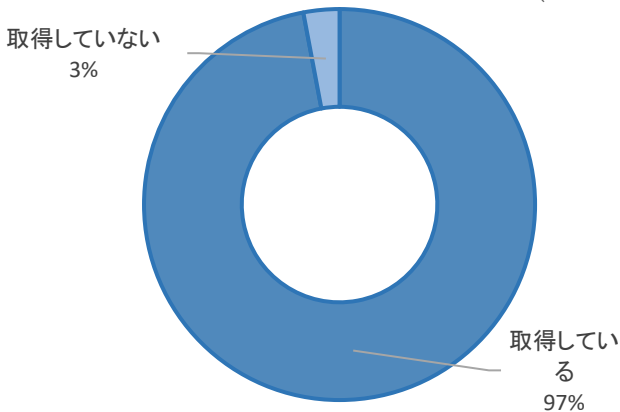
経験年数（整形外科医として）

(n=977名)



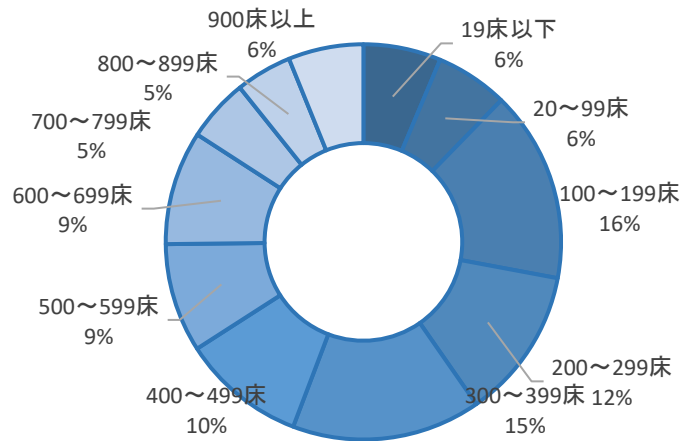
整形外科専門医の取得

(n=977名)



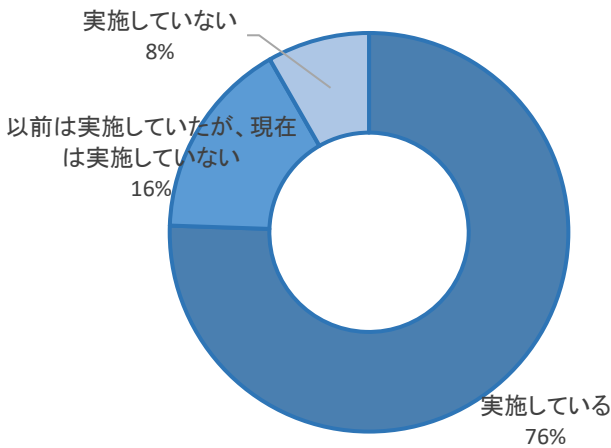
所属医療機関の規模

(n=977名)



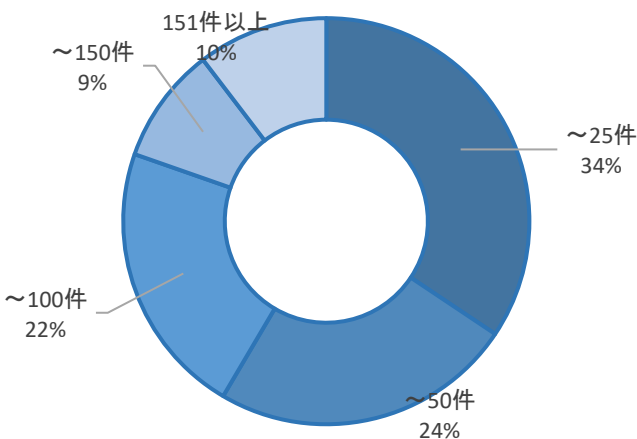
股関節手術の実施

(n=977名)



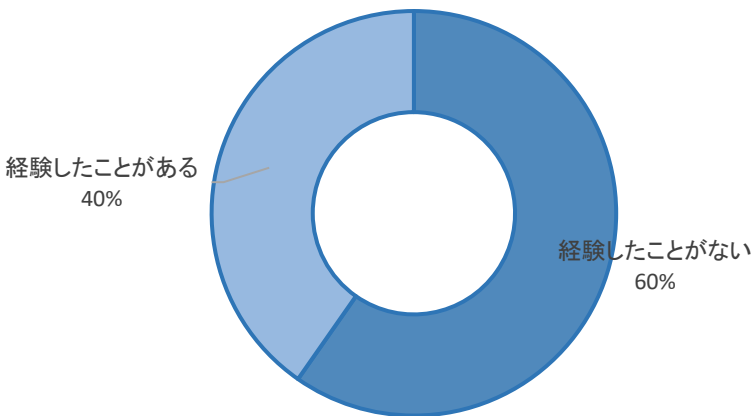
股関節手術の実施件数

(n=896名)



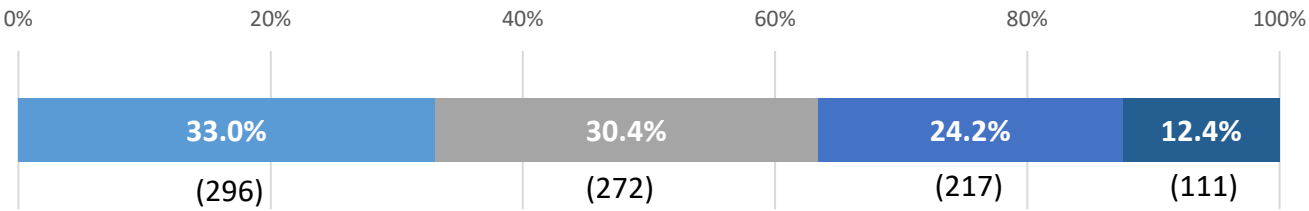
血管損傷の経験

(n=896名)

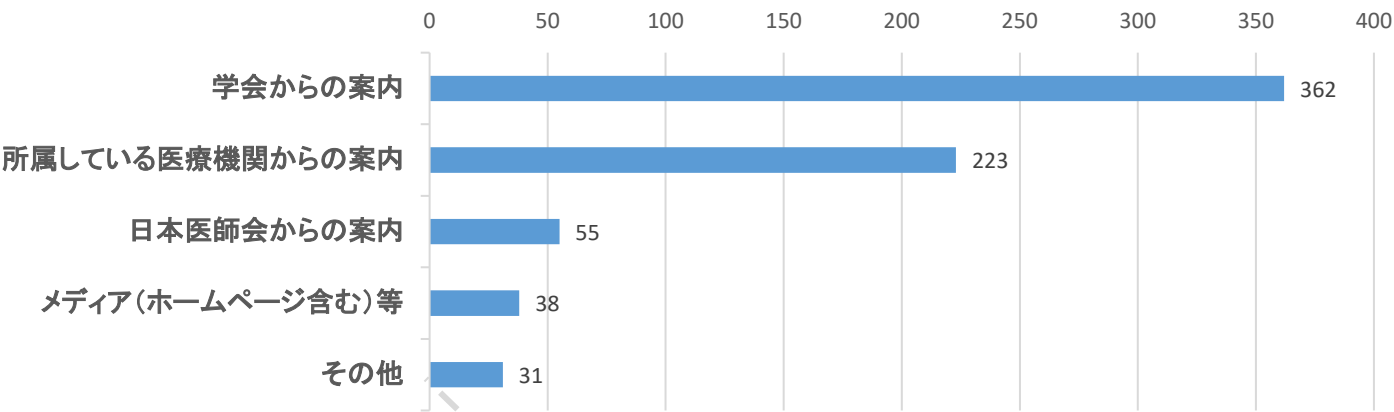


■ 提言の公表を知っていたか (n=896)

- 提言の公表を知っており、提言冊子内容も把握している ■ 提言の公表を知っており、提言の一覧のみを把握している
■ 提言の公表を知っているが、詳細な内容は把握していない ■ 提言の公表及び提言があることは知らなかった



■ 提言を知ったきっかけは何か (n=600)



- その他の主な内容
- ・上司や他の医師からの紹介
 - ・医療安全管理室からの紹介
 - ・カンファレンス
 - ・講演会
 - ・学会会場で冊子をみた

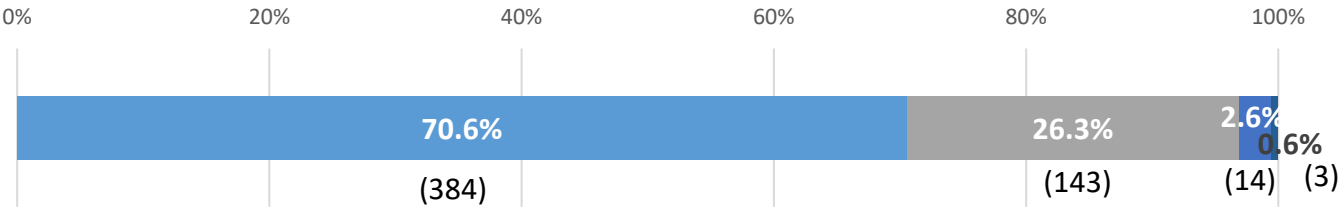
■ 提言を閲覧したか (n=896)

- 閲覧した ■ 閲覧していない

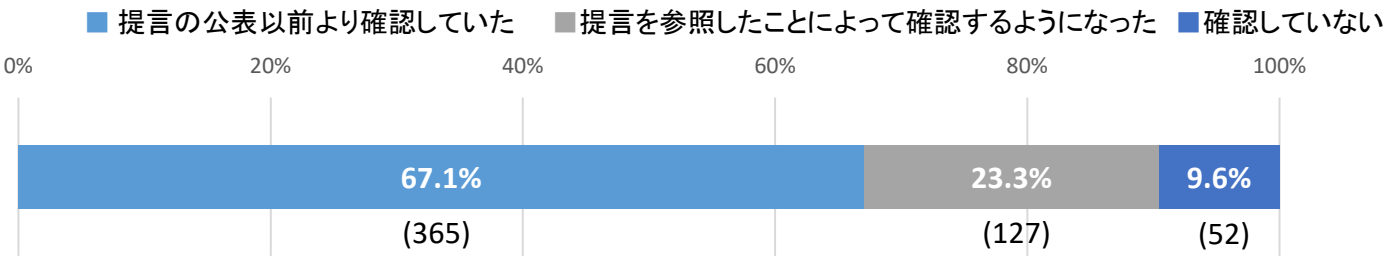


■ 提言は有用であったか (n=544)

- 非常に有用であると思う ■ どちらかという有用であると思う ■ 有用であるかどうか分からない ■ 有用でないと思う



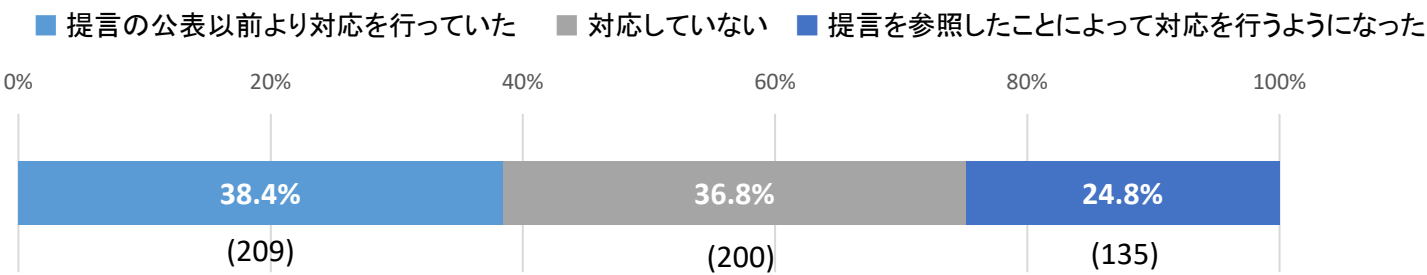
■ 術前の画像検査における血管走行等の確認(提言3)の状況 (n=544)



●確認していない理由主な内容

- ・造影CTを撮影していない。
- ・ドリルの方向は術前計画で判断できないから。
- ・ドリルが過度に挿入されないように挿入深度制限のあるドリルを使用している。
- ・確認できる時間的な余裕はない、確認したところで手技は変わらない。

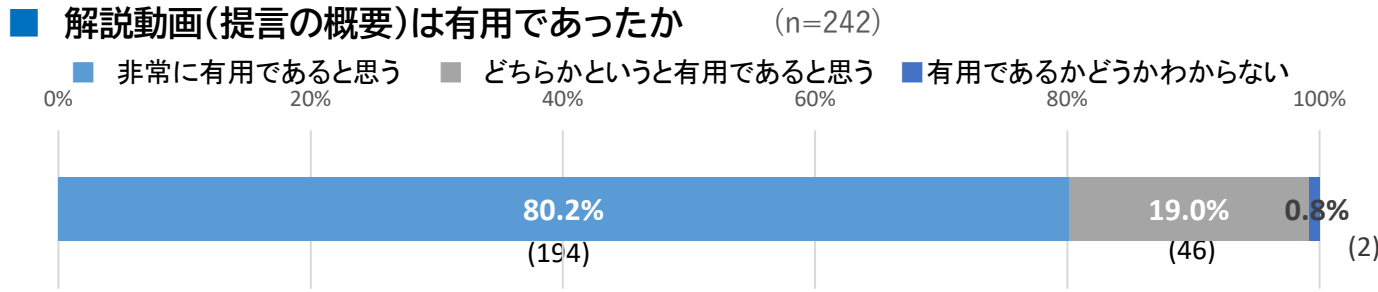
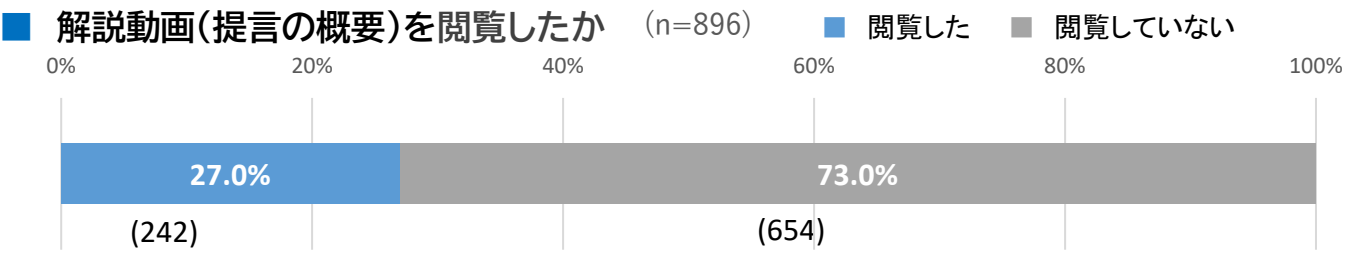
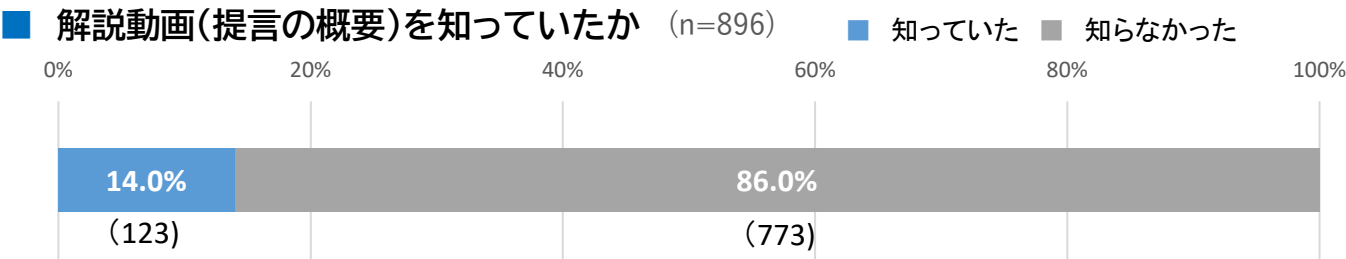
■ 術中にタイムアウトを行うなど、医療チームでの対応の状況(提言4) (n=544)



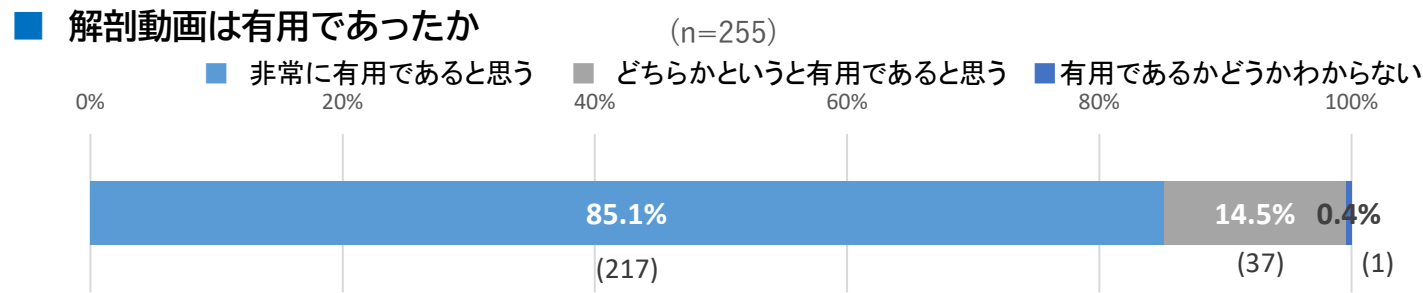
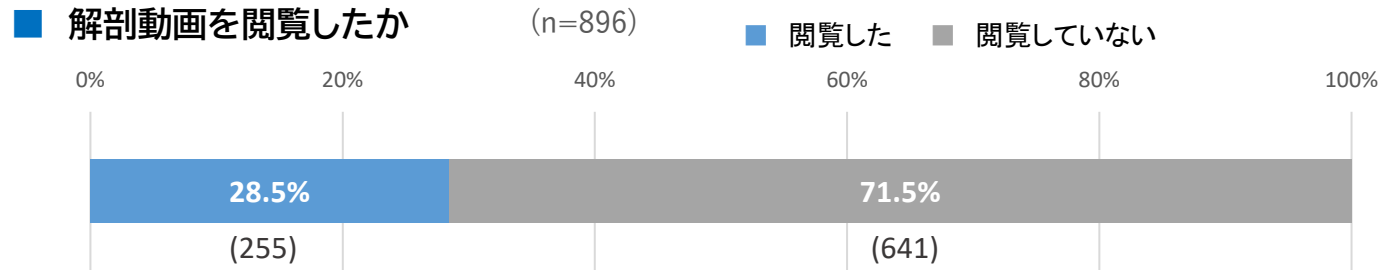
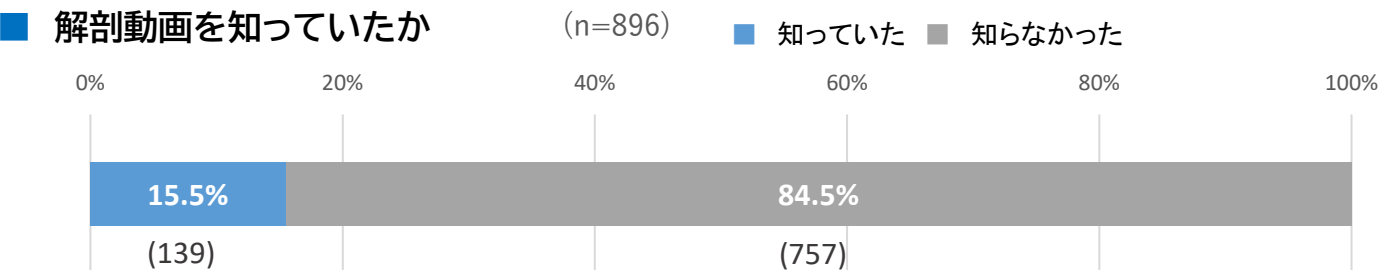
●確認していない理由主な内容

- ・ショックインデックスが1を経験していない。
- ・ショックインデックスを知らない。
- ・術中全身管理を麻酔科に一任しているため。
- ・手術室全体までは情報共有できていない。
- ・最近提言を知ったので、これから医療チームと話し合い対応予定である。

解説動画（提言の概要）周知状況



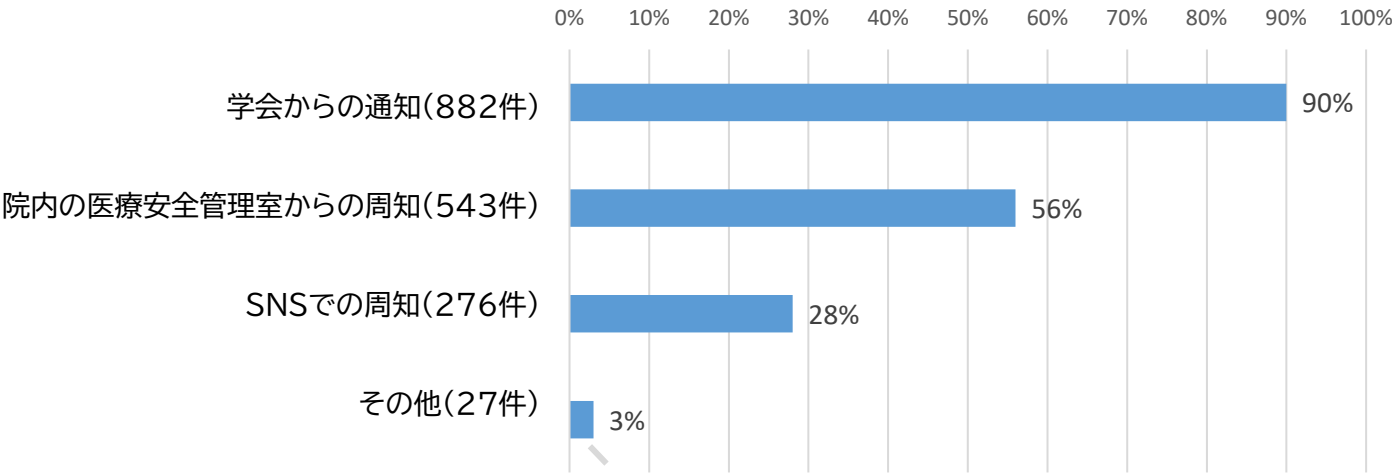
解剖動画周知状況



■ 臨床現場の医師へ提言を周知するために有効な方法は何か

(n=977)

重複計上



その他の主な内容

- ・専門医試験の問題や専門医更新の必須項目に取り入れる
- ・日本整形外科学会の医療安全単位に組み込む
- ・ランチョンセミナー等の講演やパネルディスカッションで取り上げる
- ・大学医局から通知

5-2 提言のご意見

- ・学会ホームページでもわかりやすくURLなどのリンクをおく。
- ・学会主導での周知
- ・学会に死亡例の発表演題や論文が出てこないの、水面下に押しやられてしまっていることが問題。積極的に学会のシンポジウムなどのメインテーマにすべき。
- ・提言を確認したら専門医更新単位一個プレゼント
- ・学会での教育研修講演聴講の必須化
- ・動画を専門医取得更新のための必須項目にする
- ・学会のセッションとセッションの間の時間に流す
- ・「ありうる合併症のひとつ」と捉えるのではなく、組織的な立場で課題を見つけて介入し、より安全な医療を行えるようになると感じた。
- ・今回のアンケートが提言を確認しようという動機付けになった。
- ・大切な基礎知識なので、周知徹底が必要。
- ・術者の危機管理意識の向上が重要
- ・提言、事例分析について科内でサイトを共有してそれぞれ目を通してもらった。現場での更なる意識づけになったと思う。
- ・動画のクオリティも非常に高く、内容がポイントを絞って短くまとめられており、3D動画も非常に分かりやすく、大変参考になった。
- ・術者はこれらのことは経験で認識していたが、提言化することにより助手・看護師などと共通認識となることが大きい。
- ・これから股関節手術をし始める若手の先生方に対しての有効な警鐘になったと思った。